國學院大學学術情報リポジトリ

中国人日本語学習者による依頼場面における副詞の使用：依頼メールを調査資料に

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 呉, 雨
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000866

中国人日本語学習者による依頼場面における副詞の使用
―依頼メールを調査資料に―

呉　雨

1 はじめに

母語の干渉などの影響で日本語の作文、ことにメールの書き方は中国人日本語学習者[1]にとって習得が難しい。その要因の一つとして、話し言葉と書き言葉で使用する副詞が異なることが挙げられる。日常の会話文と、メールでは文体が異なる。その使い分けが習得の難点であると考えられる。

筆者はこれまでビジネス文書や会話など、ビジネス日本語の言語資料における副詞の使用状況[2]を調査した。本稿では、ビジネス日本語と日本語教育の双方に関わるビジネス文書と関連性の高い依頼メールに着目し、中国人学習者による副詞の使用状況を考察する。具体的には、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』（I-JAS）の非対面任意調査における依頼メールの作文データを資料とし、調査分析を行う。

2 先行研究

2.1 学習者の作文における副詞の使用に関する研究

小林典子（1988）では、作文における外国人学習者による副用語の誤用には、「発音からの誤用」（例：また＜まだ＞じょうずじゃないです）、「漢字の意味に誘発された誤用」（例：何気なく＜偶然＞林さんに会った）、「数量、程度（頻度）、比較の誤用」（例：試験が難しくて、もう一度＜また＞失敗したが仕方がない）などがあると指摘されている。

石黒圭（2004:12）は、日本語の漢語副詞は、一般的に書き言葉のような硬い文体に適した漢語名詞とは異なり、くだけた話し言葉に適した文体的性格を持っていることが多いと述べている。また、同論文では、中国人学習者は作文を書く際に漢語副詞を漢語名詞と同様に書き言葉的であると理解するゆえに、主観性が強く感じられる「全然」「一番」「多分」のような漢語副詞を多く用いるが、それらは主観性が強く感じられる表現であるため、読者に厳密さを欠いて

いるような印象を与え、文体的な違和感を生じさせることがあることも指摘されている。

2.2 依頼場面のメールに関する研究

大友沙樹（2009）は、中国語と日本語の依頼メールではストラテジーが異なると述べている。具体的には、依頼する前に、日本語では「お詫び」など相手のネガティブ・ フェイスに配慮したストラテジーが多用されるのに対して、中国語では積極的に相手に近づこうとするポジティブ・ポライトネス・ストラテジーが使用されるという。また、中国語のメールでは、依頼の後、相手の承諾を得る前にも「感謝」のストラテジーが使用されるが、こうしたストラテジーは日本語では使用されないことも指摘している。

2.3 副詞の分類に関する研究

副詞の分類については、山田孝雄（1943）による「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」[3]という 3 分類をはじめ、さまざまな分類方法が試みられてきた。例えば、市川孝（1976:233）による「状態の副詞」「程度の副詞」「陳述の副詞」「評価の副詞」「限定の副詞」の 5 分類、中右実（1980:161）による「命題内副詞」と「命題外副詞」の 2 分類などがある。副詞の分類方法、とりわけ「陳述副詞」の下位分類については多く議論されている。

工藤浩（1982）などの一連の研究は、「陳述副詞」の下位分類を試みている。工藤浩（2000）によれば、「陳述副詞」は「叙法副詞」「とりたて副詞」「評価副詞」と分類でき、「叙法副詞」はさらに「A 願望―当為的な叙法」「B 現実確認的な叙法」「C 条件―接続の叙法」「D 下位叙法」に分けられると述べられている。

本稿は、副詞を大きく「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」の 3 種類に分類し、「陳述副詞」の下位分類については、工藤浩（2000）の分類方法に従う。

3 調査資料と調査方法について

本稿では、国立国語研究所が構築した『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)[4]の非対面任意調査における作文データを調査資料とする。調査資料となる作文の内容は「(学生から先生に対する) 奨学金申請のための推薦状

の依頼」（以下、依頼メール 1）「（学生から先生に対する）レポート提出期限延長のお願い」（以下、依頼メール 2）である。調査対象は中国人学習者と日本語母語話者とする。概略を表 1 に示す。

表 1 調査対象と資料の構成

資料 対象	依頼 メール 1	依頼 メール 2	計	副詞の使用
中国人学習者	40 人	40 人	80 人	異なり語数 63 延べ語数 373
日本語母語話者	48 人	48 人	96 人	異なり語数 44 延べ語数 358

調査対象の中国人学習者 40 人の J-CAT 日本語テスト[5]による日本語のレベルを、下記の表 2 に示す。

表 2 調査対象の中国人学習者の日本語レベル

J-CAT スコア	レベル	人数	学習者
-100	初級	0	－
100-150	中級前半	1	CCH49
150-200	中級	10	CCH21、25、26、28、30、31、36、48、50、63
200-250	中級後半	18	CCH13、18、19、20、22、23、27、29、32、34、38、39、40、42、43、52、54、59
250-300	上級前半	11	CCH08、09、11、12、16、17、33、35、37、45、55
300-350	上級	0	－
350-	日本語 母語話者相当	0	－

調査資料はタグ付けされておらず、PDF 版とプレインテキストのみで公開されているデータであるため検索システムは使用できなかった。そのため、調査にあたっては『Web 茶まめ』[6]を用いて、プレインテキストを形態素分析し、「副詞」を抽出した。

集計した結果、中国人学習者が使用する副詞の異なり語数は 63 語であり、延べ語数は 373 語であった。日本語母語話者が使用する副詞の異なり語数は 44 語であり、延べ語数は 358 語であった。

4 調査資料に使用される副詞の出現傾向

中国人学習者と日本語母語話者による依頼メールに使用される副詞について、2.3 で示した副詞の分類により整理したものを表 3 に示す。また、両者が使用する副詞の上位 20 語を表 4 に示す（表内の語の表記は調査資料に収められているデータによるものであり、括弧内の数字は各副詞の用例数である）。

表 3 使用される副詞の分類別分布

副詞の分類		中国人学習者	日本語母語話者
情態副詞	様態副詞	**異なり語数 11　延べ語数 33**	**異なり語数 4　延べ語数 10**
		いろいろ（色々）(20) せっかく(2) そろそろ(2) 何とか(2) すっかり(1) そう(1) だんだん(1) ちょうど(1) どんどん(1) 見事(1) やっと(1)	いろいろ（色々）(3) 重々(3) こう(2) しっかり(2)
	時間副詞	**異なり語数 17　延べ語数 88**	**異なり語数 14　延べ語数 70**
		もう(24) いつも(13) ずっと（ずーと）(11) また(11) 突然(8) まだ(6) 改めて(4) 取り急ぎ(2) 相変わらず(1) しばらく(1) すぐ(1) すでに(1) たびたび(1) まず(1) まずは(1) もともと(1) よく(1)	いつも(18) もう(12) 突然(12) まずは(6) 取り急ぎ(5) 早速(4) まだ(4) あらためて（改めて）(3) あらかじめ(1) いきなり(1) 急遽(1) ずっと(1) まず(1) ようやく(1)

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">程度副詞</td><td>異なり語数 14　延べ語数 71</td><td>異なり語数 8　延べ語数 74</td></tr>
<tr><td>大変(19) ちょっと(18) 少し(7)
もっと(6) とても(5) よく(5)
たくさん(2) 益々(2) より(2)
一番(1) 一層(1) だいぶ(1)
なかなか(1) もっとも(1)</td><td>大変（たいへん）(50) 少し(12)
とても(3) より(3) 十分(2)
もっと(2) 一層(1) さらに(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">陳述副詞</td><td rowspan="2">叙法副詞</td><td>異なり語数 19　延べ語数 122</td><td>異なり語数 15　延べ語数 181</td></tr>
<tr><td>A 願望―当為的な叙法
（依頼）よろしく（宜しく）(31)
どうぞ(17)
どうか(3)
何卒（何とぞ）(2)
くれぐれも(1)
（希望・当為）ぜひ(7)
B 現実確認的な叙法
（質問・疑念）どう(6)
いかが(2)
（確信）きっと(6)
（推定）どうも(1)
（否定）
b（程度性）ぜんぜん（全然）(2)
あんまり(1)
まったく(1)
c（動作限定）
（不可能）どうしても(10)
なかなか(1)
（肯定）必ず(9)
C 条件―接続の叙法
（仮定条件）もし(7)</td><td>A 願望―当為的な叙法
（依頼）よろしく（宜しく）(76)
どうぞ(22)
何卒（何とぞ）(18)
どうか(9) くれぐれも(1)
（希望・当為）ぜひ（是非）(13)
是非とも(4)
B 現実確認的な叙法
（質問・疑念）いかが(4) どう(1)
（否定）
c（動作限定）
（不可能）どうしても(8)
なかなか(2)
（肯定）必ず(3)
C 条件―接続の叙法
（仮定条件）もし(6)</td></tr>
</table>

		D 下位叙法 （打ち明け）実は(14) （予想・予期）やっぱり(1)	（譲歩）もちろん(4) D 下位叙法 （打ち明け）実は(10)
	とりたて副詞	**異なり語数 5　延べ語数 59**	**異なり語数 3　延べ語数 23**
		本当に(30) どうも(12) ほんとに（ホントに）(7) 誠に(7) ひとえに(3)	誠に（まことに）(11) 本当に(11) 特に(1)
	評価副詞[1]	**異なり語数 0　延べ語数 0**	**異なり語数 0　延べ語数 0**
合計		**異なり語数 66[2]　延べ語数 373**	**異なり語数 44　延べ語数 358**

[1] この評価副詞には典型的な例として「さすが」「幸い」「いまいち」などが想定されるものの、本調査では用例が見られなかった。

[2] 「よく」「どうも」「なかなか」のような同じ表記の語は分類が複数にわたり、それぞれ異なる語として数えたため、表 3 の異なり語数は 66 になる。

表 3 を見ると、いずれの副詞の分類においても、日本語母語話者より中国人学習者のほうが、使用する副詞の種類が豊富であることが指摘できる。副詞の分類に着目すると、日本語母語話者と比べて、中国人学習者は様態副詞（例：「せっかく」「そろそろ」)、時間副詞（例：「また」「しばらく」)、とりたて副詞（例：「特に」）を多く使用する傾向がある。それに対し、日本語母語話者による叙法副詞の使用は中国人学習者より多い傾向がある。特に日本語母語話者の「よろしく」「何卒」の用例数は圧倒的に多い。また、評価副詞は、今回調査した依頼メールでは中国人学習者、日本語母語話者ともに使用は見られなかった。

中国人学習者による依頼メールでは、「一番」「ぜんぜん（全然)」のような口語で用いられやすい漢語副詞が使用されているが、日本語母語話者による依頼メールではそのような漢語副詞は使用されていないことがわかる。これは、2.1 で挙げた石黒圭（2004）で述べられている、作文における「一番」などの漢語副詞の使用傾向と共通している。

表 4 使用頻度上位 20 語

順位	中国人学習者の上位 20 語	副詞レベル(1)	学習者の使用数	母語話者の使用数	日本語母語話者の上位 20 語	副詞レベル	母語話者の使用数	学習者の使用数
1	よろしく（宜しく）	N5	31	76	よろしく（宜しく）	N5	76	31
2	本当に	N5	30	11	大変（たいへん）	N5	50	19
3	もう	N5	24	12	どうぞ	N5	22	17
4	いろいろ（色々）	N5	20	3	いつも	N5	18	13
5	大変	N5	19	50	何卒（何とぞ）	N1	18	2
6	ちょっと	N5	18	0	ぜひ（是非）	N4	13	7
7	どうぞ	N5	17	22	もう	N5	12	24
8	実は	N2N3	14	10	少し	N5	12	7
9	いつも	N5	13	18	突然	N2N3	12	8
10	どうも	N5	13	0	誠に（まことに）	N1	11	7
11	ずっと（ずーと）	N4	11	1	本当に	N5	11	30
12	また	N5	11	0	実は（じつは）	N2N3	10	14
13	どうしても	級外	10	8	どうか	級外	9	3
14	必ず	N4	9	3	どうしても	級外	8	10
15	突然	N2N3	8	12	まずは	級外	6	1
16	ぜひ	N4	7	13	もし	N4	6	7
17	ほんとに（ホントに）	N2N3	7	0	取り急ぎ	級外	5	2
18	誠に	N1	7	11	いかが	N5	4	2

19	もし	N4	7	6	**早速**	N2N3	4	0
20	少し	N5	7	12	まだ	N5	4	6

(1) 語彙の日本語能力試験におけるレベル判定は、日本語読解学習システム『リーディング・チュウ太』(http://language.tiu.ac.jp/) を用いて行う。

表 4 を見ると、中国人学習者と日本語母語話者のどちらかのみの使用頻度上位に現れる副詞（**太字**で示す語）があることがわかる。具体的には、中国人学習者のみ上位に現れるのは「本当に」「いろいろ（色々）」「ちょっと」「どうも」「ずっと（ずーと）」「また」「必ず」「ほんとに（ホントに）」、日本語母語話者のみ上位に現れるのは「何卒（何とぞ）」「どうか」「まずは」「取り急ぎ」「いかが」「早速」である。「いろいろ（色々）」「ちょっと」「どうも」「また」などが多用されるのは中国人学習者の依頼メールの特徴であり、「よろしく（宜しく）」「何卒（何とぞ）」などが多用されるのは日本語母語話者の依頼メールの特徴であるといえる。

上位 20 語のうち、中国人学習者が用いる副詞は、日本語能力試験 N5 レベルの副詞が多い。ただし、その他のレベルの副詞で多く使用されているものもある。例えば、級外の副詞である「どうしても」、N1 レベルの副詞である「誠に」は使用の上位に現れている。一方、日本語母語話者は「級外」の副詞を多く使用している。N1 レベルの副詞「何卒（何とぞ）」は、日本語母語話者による使用は多いが、中国人学習者による使用は少ない。

「どうか」「取り急ぎ」のような副詞は表 4 で示されているように、日本語母語話者による使用が多いことから依頼メールで必要とされていることがわかる。また、呉雨（2019）で述べた通り、「どうか」「取り急ぎ」はビジネス文書の場面においても多用されるが、日本語能力試験では「級外」と扱われている。日本語教育の汎用的な課程では、「どうか」「取り急ぎ」のようなビジネス文書で使用頻度の高い語を優先的に指導していないことが想像される。そのため、ビジネス日本語教育を行う際に、汎用的な日本語教育課程における副詞の指導との違いを心がける必要があり、職場に適した実践的な副詞の指導が求められると考えられる。

5 中国人学習者による副詞誤用例の考察

前節では調査結果を概観した上で、次は、調査によって得られた中国人学習者による副詞の誤用例と不自然な用例について考察する。

5.1 「また」の誤用

中国人学習者による「また」と「まだ」の誤用、習得に関しては小林典子(1988)、長谷川玲子（2000）などで扱われている。本調査でも、以下のような「まだ」を「また」にした誤用例[7]が見られた。

(1) さて、もっと勉強できるため、また日本に留学しに行きたいです。でも親には**また**[8]そういう大金を出す力がないので、日本の奨学金を申請したいです。

(CCH45 上級前半 メール 1)

用例（1）のような、中国人学習者による「まだ」を「また」とする誤用の原因は、「だ」と「た」の清濁の混乱以外にも、「まだ」と「また」が同じ「時間副詞」に属することから生じる意味用法の混乱もあると考えられる。

以下、「まだ」と「また」の中国語訳を検討する。『新編日語』（中国の大学で多く使用されている日本語教科書）と『日中辞典』（第 3 版）は、副詞の「また」と「まだ」について以下のように説明している。

表 5 副詞「また」と「まだ」の解釈

	副詞	解釈	例文
『新編日語』	また	又，再，也	しかし、丁さんはときどき残業をします。**また**よく同僚のつきあいをします。
	まだ	尚，还	―中国の映画「新西遊記」でした。李さんはもう見ましたか。 ―いいえ、**まだ**です。長いですか。
『日中辞典』	また 【又】	1（再び・もう一度・重ねて） 再，还，又	～会いましょう／**再**见 来年～来られますか／明年**还**能来吗？ パソコンが～壊れた／电脑**又**坏了

		2（同じく） 同样，也	わが社も～経営不振に陥っている／我们公司**同样也**陷入了经营困难 あすも～きょうと同じく蒸し暑い 1 日になりそうだ／明天和今天一样**也**将是闷热的一天
		3（加えて・そのうえ） 同时也	秋は～収穫の季節でもある／秋天**同时也**是收获的季节
		4（驚きなど） 又	それは～どうして？／这**又**是为什么呢?
		5（別） 又，另外，下次	この件については～にしましょう／这件事**下次**再说吧
	まだ 【未だ】	1（いまだ…ない） 还没，未	～完成していない／**还没**完成
		2（いまだに）还	走れば～間に合う／跑的话**还**来得及
		3（さらに） 此外，还，再	～他にご意見のある方は？／其他人**还**有意见吗?
		4（数量が少ない） 还，才	着任して～日が浅い／到任时间**还**不长 ～3 枚しか書けていない／**才**写了三页
		5（まだしも） 还算是	寒いのは～耐えられるが暑いのは苦手だ／冷**还**可以忍受，最怕热

表 5 に示した通り、『日中辞典』では、「また」と「まだ」はいずれも中国語で“还”“再”と説明されており、中国語で解釈すると重なる部分が現れる。実際には、「あした**また**来ます／明天**还**来)」「**まだ**間に合います／**还**来得及」（作例）のように、いずれも“还”に訳すことができる。学習者が副詞を学ぶ際に母語である中国語の意味を覚えてしまうことで、「また」と「まだ」の区別がさらにつけにくくなると考える。

「まだ」と「また」の形態上および副詞としての統語的用法の類似点のほか、中国語の対応する意味がまたがることが中国人学習者の誤用の要因であると考えられる。

5.2 「きっと」の誤用

5.1 で示した「また」の他には、(2) (3) のような「必ず」を「きっと」にした誤用例も見られる。

(2) 先生、今週末にレポートを提出させていただけませんか？そして、単位をもらうために、わたしは**きっと**まじめに完成します。

(CCH30 中級 メール 2)

(3) 先生、もう一度すみませんでした。来週はどうですか？私、**きっと**来週前にレーポトを出せます。

(CCH40 中級後半 メール 2)

工藤浩（1982）によれば、「きっと」は話し手の確信、話し手の期待、くりかえし現れる事態（の確率）などの意味を表し、それらの意味の一般的性質は「確率の高さ」であり、「必ず」は確率が（ほぼ）100%でそのことの実現を表す用法が最も多いが、確信・推測、意志・決意、義務・必要などを表す用法もあるという。他の先行研究によると、「きっと」はなんらかの意味で推量の意を帯び得る文末しか共起しない（佐治圭三 1986）、書き手の主観的な考え、主観性の強い推量が表れる文章に多く、客観性や事実性が求められる文章に適さないという文体的特徴を持つ（前坊香菜子 2014）と指摘されている。

上記の用例において、「レポートをまじめに完成させる」「レポートを出す」という決意を表す際に、先生に約束するという意味が含まれている。「きっと」を用いると、(2) (3) は「私はきっとレポートをまじめに完成する（だろう）」「私、きっと来週前にレーポトを出せる（と思う）」のように、レポートを完成させる・出す保証ができない可能性があり、あくまで書き手はそう期待していると誤解されやすくなる。したがって、先生に提出の締め切りの延長を依頼し、期限内にレポートの提出を約束する (2) (3) の場合には、「きっと」より「必ず」のほうがより適切である。

中国の日本語教科書『新編日語』では、「きっと」「必ず」の中国語の説明はいずれも“一定”になっている。実際に、中国語の“一定”には「推量」「意志」「依頼」など、多くの用法がある。「きっと」「必ず」をいずれも“一定”と訳

すと、中国人学習者は「きっと」=「必ず」= “一定”と間違って理解してしまう恐れがある。中国人学習者にとって「きっと」と「必ず」の用法が区別しづらいのは、日本語における類似性以外に、「きっと」と「必ず」を中国語に訳したときの意味が近いことも関係していると考えられる。

5.3 漢語副詞の使用

石黒圭（2004:12）によれば、中国人学習者は作文で漢語副詞を多く使用する傾向があり、漢語名詞は一般に書き言葉のような硬い文体に適した性格を持つが、漢語副詞は主観性が強く、思い込みなどに基づく判断のようなニュアンスがあり、書き言葉で用いると、文体上は違和感を生じさせることがあると述べられている。

本調査でも、「先生に依頼するメール」という改まった場面において、中国人学習者による漢語副詞「一番」「ぜんぜん（全然）」の使用例として下記のような例文が見られた。

(4) 学生にとって、一番重要なのは勉強だと私が知っています。今度、私は必ず宿題を終わらせてから遊びに行きます。

(CCH42 中級後半 メール 2)

(5) わたくしは本当にあしたまでにこのレポウトを出したいと思っておりますが、ぜんぜんダメなんです。

(CCH19 中級後半 メール 2)

(6) 一週間前に友達が遊びにきたので、彼たちに案内して一緒に料理をたべて、勉強することは全然じかんがなかったんです。

(CCH28 中級 メール 2)

「先生に依頼するメール」において、漢語副詞「一番」「ぜんぜん（全然）」を用いると、読み手に文体的には厳密さと敬意が足りない印象を与える。このような文体上の齟齬を避けるには、中国人学習者に漢語副詞の文体的性格を指導すべきであると考える。

5.4 「どうも」の多用

飛田良文・浅田秀子（2018:331）は、「どうも」は敬意が低く、目上に対してはあまり用いられないと指摘しているが、本章の調査では、中国人学習者は目上となる先生に対する依頼メールにおいて「どうも」を使用する例が見られた（例 7）。

(7) 日本にいるとき、色々とお世話になりまして、どうもありがとうございます。

（CCH16 上級前半 メール 1）

先生に依頼するという目的のメールで、「依頼する」という意思を表明する際に、中国人学習者が「どうもありがとうございます」によるポジティブストラテジーを用いて感謝の意を表す用例は 7 例見られた。以下の（8）（9）はそのうちの 2 例である。

(8) 奨学金を申請する時、推薦書が必要ですが、そして私は先生に推薦書を書いていただくと思います。どうもありがとうございます。

（CCH36 中級 メール 1）

(9) 先生、ちょっと遅くて提出させていただけないでしょうか。本当に申し訳ございませんが、どうもありがとうございます。

（CCH22 中級後半 メール 2）

2.2 で述べた通り、大友沙樹（2009）では中国語と日本語の依頼メールにおけるストラテジーが異なると指摘されている。中国語の依頼メールでは、依頼後の行動として、日本語の「お願いします」「お手数をおかけしてすみません」のような“拜托你了”“麻烦你了”といった懇願のニュアンスを含んだ表現が使用されるが、日本語には見られない“谢谢您”のような感謝の表現が頻繁に使用されると述べている。

本調査で見られた例（8）（9）を見ると、日本語の依頼メールでは、推薦書を書いていただくという依頼内容を述べた後に、相手の承諾を得ていないにもかかわらず、「どうもありがとうございます」と相手に感謝するのは、非常に不自然なことである。中国語と日本語では依頼のストラテジーが異なり、このような不自然な例は中国語の慣習による影響であると考えられる。

また、「どうぞ」を「どうも」にした誤用は 3 例見られた（例 10、11、12）。

(10) 実は先生へのお願いがあります。このたびはまた日本に留学するつまりなので、日本からの奨学金がいただきたいなので、でも申請するのは先生の推薦が必要ですが、どうもお願いいたします

(CCH39 中級後半 メール 1)

(11)（前略）先生は推薦状を書いていただけませんか。ご返事をお待ちしております。以上です。どうもよろしくお願いいたします。

(CCH42 中級後半 メール 1)

(12)（前略）先生、申し訳ございませんでしたが、私は三日後報告を出してもよろしいでしょうか。

以上です。どうもよろしくお願いいたします。

(CCH42 中級後半 メール 2)

調査資料である依頼メールは、学習者によるパソコンの入力データから収集したため、(10) における「どうも」は、ミスタイプである可能性もある。しかし、学習者 CCH42 はメール 1、メール 2 ともに間違えているため、(11) (12) は「どうぞ」と「どうも」を混同した誤用例である可能性が高いと考えられる。

6. おわりに

本稿では、依頼のメールを調査資料として、日本語母語話者の用例と比較しつつ、中国人学習者による副詞の使用状況を調査した。

その結果、日本語母語話者の使用と比較すると、中国人学習者は「様態副詞」「時間副詞」「とりたて副詞」を多く使用すること、日本語母語話者による「叙法副詞」の使用は中国人学習者より多いことを明らかにした。

用いられている副詞を見ると、中国人学習者は日本語母語話者より、話し言葉で使用されやすい「いろいろ（色々）」「ちょっと」「どうも」「また」を多く用い、日本語母語話者は中国人学習者より「何卒（何とぞ）」を多く使用することがわかった。また、誤用としては「まだ」を「また」に、「必ず」を「きっと」に、「どうぞ」を「どうも」にした誤用例が見られた。

日本語で依頼メールを書くときに、副詞の意味用法、文体上の副詞の使い分

け、副詞による相手に対する配慮など、注意すべき点は多い。そのため、依頼メールにおける副詞の使い分けを習得することは、中国人学習者にとって難しいと考えられる。それに対する有効な指導法については、今後の課題として検討したい。

注：

1 ビジネス文書、ビジネス会話における副詞の使用実態についてはそれぞれ呉雨（2019)、呉雨（2020）を参照。

2 以下、「中国人学習者」とする。

3 山田孝雄（1936:374）は、接続詞を「接続副詞」、感動詞を「感動副詞」とし、副詞を「接続副詞」「感動副詞」「陳述副詞」「情態副詞」「程度副詞」の5種類に分類している。以後の「陳述副詞」「情態副詞」「程度副詞」の3分類の根拠となった。

4 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS）の詳細は下記を参照のこと。https://chunagon.ninjal.ac.jp/static/ijas/about.html

5 J-CAT 日本語テストは右記を参照のこと。http://www.j-cat.org/

6 『Web 茶まめ』については下記を参照のこと。
http://chamame.ninjal.ac.jp/

7 用例文における誤用や誤表記と思われるものは全て原文のままで手を加えていない。

8 ここの「また」は中国語の“～也～”としてとらえられている可能性が低い。中国語では、“～也～”は前件と後件の並立関係を示す。「親には大金を出す力がない」の前後に「自分は貯金がない」「アルバイトができない」のような並立する理由が言及されていないため、例（1）は“还没～”の意味を表す「まだ～（ない)」を「また」にした誤用例であると考えられる。

参考教科書・辞書

上海外国語大学編（2009)『新編日語』上海外語教育出版社

北京対外経済貿易大学ほか編（2015)『日中辞典』(第3版）小学館

参考文献

市川孝（1976)「副用語」『岩波講座日本語 6 文法 1』pp.219-258 岩波書店

石黒圭(2004)「中国語母語話者の作文に見られる漢語副詞の使い方の特徴」『一橋大学留学生センター紀要』7 pp. 3-13 一橋大学国際教育センター
大友沙樹（2009)「電子メールにおける依頼のストラテジー：日中対照の観点から」『国際文化研究』15 pp. 61-72 東北大学国際文化学会
工藤浩（1982)「叙法副詞の意味と機能：その記述方法をもとめて」『国立国語研究所報告 3』pp. 45-92 秀英出版
工藤浩（2000)「副詞と文の陳述的なタイプ」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『日本語の文法 3 モダリティ』pp. 161-234 岩波書店
呉雨（2019)「ビジネス文書における副詞による配慮表現の一考察」『國學院大學大學院文学研究科紀要』50 pp. 71-90 國學院大學大學院文学研究科
呉雨（2020)「職場の会話における副詞の使用：職場談話コーパスを調査資料として」『論究日本近代語＜第 1 集＞』pp. 345-358 日本近代語研究会 勉誠出版
小林典子（1988)「外国人日本語学習者による副用語の誤用：誤用例の分類の試み」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』3 pp. 29-47 筑波大学留学生教育センター
佐治圭三(1986)「「必ず」の共起の条件：「きっと」「絶対に」「どうしても」との対比において」『同志社女子大学学術研究年報』第 37 巻(4) pp. 375-386 同志社女子大学
中右実（1980)「文副詞の比較」日英語比較講座第２巻『文法』pp. 157-219 大修館
長谷川玲子（2000)「「また」と「まだ」の意味領域に関する一考察：中国語話者の習得における問題点をめぐって」『産能短期大学紀要 創立 50 周年記念特別号』34 pp. 231-238 産能短期大学
飛田良文・浅田秀子（2018)『現代副詞用法辞典』(新装版）東京堂
前坊香菜子（2014)「「必ず」「絶対」「きっと」の文体的特徴：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の調査から」『一橋大学国際教育センター紀要』5 pp. 93-104 一橋大学国際教育センター
山田孝雄（1936)『日本文法学概論』宝文館

―国学院大学大学院博士課程後期―